

7 地域で実施した意見交換会における主な意見

名称	区立施設再編整備計画の検証に関する意見交換会（高井戸地域）
対象	公募、無作為抽出した区民
参加者数 （区民）	17名
開催日時	令和5年7月1日 午後2時～午後4時30分
場所	高井戸地域区民センター 第1・2集会室
意見交換会 の目的	これまでの再編整備の取組や、これからの施設整備の進め方について区民意見を聴取する（グループワーク等を実施）。
主な意見	<p>学識経験者情報提供後の感想・気づき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講談には住民参加というキーワードが無かったことが気になった。富山市の複合化の事例は、本当に税金の節約になっているのか。高齢者は図書館に集まることで会話が生まれコミュニケーションの場になっている。杉並区にはゆうゆう館や児童館があって、それらが点在していることはコミュニティの形成にメリットがある。 ・これからの未来に向けてのビジョンということで理解した。大学の先生の言う通りだと思う。ゆうゆう館もコミュニティふらっとになっていくが、ソフト面が見えてこないのが気になる。施設管理やマネジメントと言っても、その仕組みや理念が大事だと思う。 ・まちを俯瞰してみることも大事だが、歩いて感じる課題も大事だ。まちづくりにはビジョンが大事で、トップダウン型とボトムアップ型の両方が必要。各施設が持つ機能を生かすには、強引な複合化は良くない。 <p>学識経験者・区の情報提供後の感想・質問事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区の施設は子供と高齢者だけの問題ではない。様々なジャンルの区民がいる。全世代、働いている人も含めて再編に関わる方法を考える必要がある。 ・再編整備を進めていく中で、ゆうゆう館や児童館が、コミュニティふらっとや子ども子育てプラザに移行されているが、取組を進めていく中で出た課題や感想があれば教えてほしい。 ・若い世代が区の情報を得られない。どのような情報が出ているかも分からない。 <p>これからの施設整備の進め方について考える</p> <p><①区を進める考え方について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各施設の特徴を踏まえた再編整備を。（例）図書館と中学校などは機能と対象が異なります。 ・区が課題解決のパターンを複数考えてから区民と対話した方が良い。 ・区の方針ありきでなく、正確な資料とていねいな理由説明がほしい。 ・進め方については、課題を共有する時点で区民からの要望等が提示されたら、拾い上げて、追って検討する場所を考えて欲しい。

主な意見

<②③どんな人と・どんな単位で>

- ・同年代が中心でありつつも必ずジェネレーションをこえた対話の機会が必要。実行できる、できないかより、こうありたい！から話をすすめる。
- ・「わからないから参加しない」という人もいることを考えてほしい。
- ・より多くの世代の意見を取り入れる工夫

<④手段・方法>

- ・アンケートは取り方が難しいのでダメ。利用者と住民と行政のメンバー。
- ・必ず量的調査、質的調査両方の視点で行うべき。また、出た結果をもとにワークショップを行うことで意見の整理ができると思う。
- ・意見の聞き方はアンケート（IT活用）と直接対話の双方が良いと思う。

<⑤意見がまとまらない場合の対応>

- ・意見がまとまらない場合、多数を占めた意見ごとに代表者を出し、区職員と有識者たちが詰める。
- ・意見がまとまらない場合、まとまる（納得するまで）時間をかける（見切り発車しない）。
- ・纏まらない場合は、最終的に区にまかせる。

<⑥地域間での施設の有無（偏り）について>

- ・施設がない場合は代用を考えてもよいのではないか。
- ・地域間での偏りの有無はあっていい。地域によって人の生活は異なる可能性があるため。ただし、行政の一方的な決断で偏りがあることは例外。
- ・地域ごとの隔たりよりも、そこにニーズがあるかが大事。

<その他>

- ・アンケート結果で「どちらでもない」を減らすためには、情報発信の仕方が大事。
- ・今まで箱ありき。中身が大切。
- ・施設の建物だけでなく、そこの職員の役割についても検討してほしい。

未来へつなぐ公共施設のカタチ

- ・住民と行政と専門家がバランスよく（誰かに強いパワーがない）手を取り合って一緒につくることが大切だと思います。そして、透明性をもって。
- ・区役所、職員、区民、老若男女が対話により近づいていくことで、杉並は住みやすい街になるのだと思いました。
- ・真の共生社会に向けて、世代間交流、マイノリティとの交流（障害者、LGBT）。サービスの比率を子どもどまん中で考える上で、共生社会を考えてほしい。

名称	区立施設再編整備計画の検証に関する意見交換会（阿佐谷地域）
対象	公募、無作為抽出した区民
参加者数 （区民）	19名
開催日時	令和5年7月5日 午後6時～午後8時30分
場所	阿佐谷地域区民センター 第1・2・3集会室
意見交換会 の目的	これまでの再編整備の取組や、これからの施設整備の進め方について区民意見を聴取する（グループワーク等を実施）。
主な意見	<p>これからの施設整備の進め方について考える</p> <p><①区の進める考え方について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民の意見を計画段階からヒアリングすることは大事。 ・もう少し区民に対する施設整備を進めていく内容について、様々なアナウンスをする必要があるのではないか。関心がないように見える市民が、実は情報が届いていないということはないか。 ・よいと思うが、世代間の偏りをなくすように歴史を知る会がほしい。 ・中学校や高校でこういうことをするのは？ <p><②③④どんな人と・どんな手段で・どんな方法で></p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと若い世代を呼んで今日のような会を開きたい。 ・アンケートだけでは細かなニーズを聞きとれないので、何らかの対話形式がよさそう。 ・これからの考えると「子供」メインが良い。子供優先。 ・ネットもうまく活用してほしい（若年対策）、YouTube Liveならチャットで意見もとれる。 <p><⑤意見がまとまらない場合の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・杉並区の魅力となる施設かどうか。 ・まとまらない地域については対話をくり返すしかない。 ・若い人は「居場所」でつながるより、興味・関心でつながる。 ・無理に進めず継続。 <p><⑥地域間での施設の有無（偏り）について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・偏りは仕方がないが、何も無い地区は作らない+サポート施設をつくる。 ・全てバランスよくはムリだと思う。一定の稼働率、人口動態をみながら判断するしかない。 ・地域ごとに特長が出て良いと思う。例：特長のある公園 ・地域にこだわらない考え方。

<その他>

- ・民間の居場所への行政のフォローが必要ではないか。
- ・施設のPRが足りない。一部の人のための施設になっている（予約する人はいつも一緒）。
- ・年齢による枠にはめるのは思った以上に反発ある。やりたいことはみんな様々。
- ・年代でつくられたハコ（ハード）、コンテンツ（ソフト）がいかにか合っていないかを認識した。リアルとネットもうまく使って。

全体共有

- ・杉並のビジョンを変えられないと、施設再編の計画も変えられない事が分かった。検証結果で漏れている視点を今後の計画にどれだけ反映させられるかが大事だと思う。
 - ・今日参加して、施設を作る側（区）の苦勞を知った。本日の意見交換会には若い人がいない。高齢の方ばかりが参加する会だと意見が偏ってしまうので、若者に参加してほしい。中学校や高校でも、こうした意見交換を開催したらよいと思う。グーグルなどネットで意見を募ると若い人たちは参加しやすい。まずは色々な意見があることを受け入れていけたらよいと思う。
 - ・1年生と5年生の子がおり、児童館や学童クラブを利用している。これまでは利用者としての視点しかなかったが、様々な意見に触れる良い機会となった。将来的に区の魅力・財産になるのかという視点が大切。
 - ・公共施設が楽しいまちづくりに貢献するという視点をもって欲しい。各地域に特徴的な施設があった方が良いのではないか。施設にしても、公園にしても運営の部分が大事だと思う。
 - ・無作為抽出で選ばれ参加した。自分の関心は半径数mの範囲（友人や、孫を預ける保育園のことなど）でしかなかったが、熱い皆さんの意見に触れて刺激になり、本日参加したことで施設に意識が向けられていると感じている。
- 他の区民の意見に触れる機会が無かったが、議論の入口に立つことができ、ありがたい。

主な意見

未来へつなぐ公共施設のカタチ

- ・様々な機能が整った特別な施設ということでなく、日常に利用できる半径が広すぎないものが必要と考える。
- ・「同じ地域に住んでいる」という安心感で、とても有意義な時間になった。普段使っている施設の移り変わりも知らないことが多かった。わくわく＝愛着。施設もその1つ。いろんな世代が地域を楽しめる施設づくりを。
- ・多世代型。年齢によって区切るのはやめよう。「これから何をやりたいか？」や「これから何を知りたいか？」で集える施設。
- ・誰でも気軽に使える方法と内容。充実した時間を持てるように。

名称	区立施設再編整備計画の検証に関する意見交換会（方南和泉地域）
対象	公募、無作為抽出した区民
参加者数 （区民）	11名
開催日時	令和5年7月6日 午後6時～午後8時30分
場所	永福和泉地域区民センター 第1・2・3集会室
意見交換会 の目的	これまでの再編整備の取組や、これからの施設整備の進め方について区民意見を聴取する（グループワーク等を実施）。
主な意見	<p>これからの施設整備の進め方について考える</p> <p><①区の進める考え方について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たたき台が無いと時間がかかる。 ・「知っている範囲でしか考えられない」ので、行政と住民たちが一緒に学びあう「勉強会」のような仕組み、プロセスが必要では。 ・スタディーツアーなど横並びで考えあうとよい。たたき台の前または後にあってもよい。 ・計画のたたき台の前に地域住民との対話があった方が良いのでは。 <p><②③④どんな人と・どんな手段で・どんな方法で></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中・高生の意見を。中高生サミットを行う。SNSを活用する。 ・意見を言ってくれない人、声なき声をどう吸い上げるかを考えて。 ・興味がない人が多いことが課題。 ・利用者懇談会は絶対必要だが、利用したことのない人も参加する形が望ましい。 ・「〇丁目」とかそういう単位ではなく、その地域ごとの公共空間（ex：商店街とか）で考えるとよいのでは。 <p><⑤意見がまとまらない場合の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの意見を聞きながら緊急性の判断をして進める。仕分けをして。 ・最後は区長が判断（全員納得するのは困難）。 ・色々な意見を吸い上げていることが大事。 ・無作為抽出で投票をするなど、声の小さい人の意見をすくう。 ・緊急度を見極めることが重要。 <p><⑥地域間での施設の有無（偏り）について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色を生かした差があっていい。 ・地域間での施設の有無の偏りはない方がよいと思います。 ・地域特徴を生かした施設を。平均的に置かなければいけないものと特性に応じたものを。 ・まちづくり、地域の差もとらえて行政が大きくテコいれしていく手法もある。 ・公平性の担保は必要。

<p>主な意見</p>	<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティふらっとの運営に区民参加の回路を。運営協議会の設置を。 ・整備の方針については緊急度を明確にして各施設のタイムリミットを設定していくことが第一。 ・ライフサイクルアセスメントを考えて施設を計画する。 ・区に1つしかない施設。大元は1つでも出張する、宣伝する等して皆知る、使うように。 ・今あるものを活用してコミュニティ形成。 <p>全体共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物だけではなく、建物をどのように活用していくか考えることが必要。関係する皆が共通のビジョンを持って検討できると良い。 ・やり方が違うから結果も違ってくる。杉並区の独自のやり方、すすめ方を発明しましょう。結果を変えたかったら、やり方から変えよう。今日のやり方がとても素敵だった。 ・公共施設は誰でも集える、フレキシブル、オープンであること。箱ではなくコンテンツ。100年持たせるためには、その間に使命も機能もかわる。 ・固定観念に縛られずに、時代によって形を変えられる施設を。 ・人に使われる施設で、他区に自慢できるような施設を作ってほしい。 ・公共施設には保育園、小中学校からお墓に入るまでお世話になる。人にもライフサイクルがあるように、公共施設にもライフサイクルの考えを取り入れて、維持管理や利活用を検討できると良い。 <p>未来へつなぐ公共施設のカタチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設再編には本日みたいに広く区民の意見を聞くこと。これが一番です。 ・公共施設のもつ役割を改めて考える機会となりました。地域の方にとって何が重要なのかをまずは細かく検討していく必要があると思います。 ・ひとりひとりが自由な個人として発言できる場。発言することで問題を共有し、ともに活動できる拠点。 ・いろいろな世代、障害のある方、ない方がお互いをあたたかく見守りながら交流できる雰囲気があると良いと思います。 ・箱物だけのことではなく、その中での人とのつながりが大切。お互いのことを知り合い、一緒に住みやすい杉並を創って行くという共通のビジョンを持つこと。 ・だれもが集えるオープンでフレキシブルな場の提供。
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

名称	区立施設再編整備計画の検証に関する意見交換会（西荻地域）
対象	公募、無作為抽出した区民
参加者数 （区民）	26名
開催日時	令和5年7月8日 午後2時～午後4時30分
場所	西荻地域区民センター 第3・4集会室
意見交換会 の目的	これまでの再編整備の取組や、これからの施設整備の進め方について区民意見を聴取する（グループワーク等を実施）。
主な意見	<p>これからの施設整備の進め方について考える</p> <p><①区の進める考え方について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・区が考えている施設整備の進め方は賛成です。ただ、進め方のプロセスが不明確。時間的な目安を決めたほうが良いです。公開型、意見交換は○。 ・区民からの意見収集のタイミングが前になる&増えるのは良いポイントだと思います。 ・（ソフト・ハード両面で）区のビジョンが方針を体現していく。 ・（全住民がかかわる）地域の他の課題を同時に解決することも重要視する（ゼロカーボン、防災など）。 <p><②③④どんな人と・どんな手段で・どんな方法で></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマごとに特設サイトを作り、フォームやメールでやりとりできるといい。対面も合わせて。 ・現在の施設利用者。小・中高生、若者など（将来の利用者）。無作為抽出、一般公募等。多様な参加者で。 ・整備する施設を利用するだけでなく、これからの利用する人々も必要です。また、職員側も検討会に参加する協働した意見交換が欲しい。 ・働いている人の意見も。目安箱等。パート、正規職員で意見の重みを変えない。 ・利用者が少なくても大切なことがあると思う。それをどのような形で数値化するのか。（例）高校生の利用が数少ないが継続して利用があるとか・・・。 <p><⑤意見がまとまらない場合の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・（まさに議論のポイントだと思うが）集まった意見を、誰が・どのように？を事前に決める。もしくはアナウンスする必要がある。 ・複数案を客観的評価指標に基づき比較評価（防災、まちづくりの指標なども含む）。 ・複数案の中でも答えありきでないようにしてほしい。 ・最上位目標を決める。「これだけは譲れない」というものを。 ・意見についてルール化が必要。賛成＝ともかく賛成、反対＝絶対反対は無し。賛成ならばなぜ賛成なのか、反対ならばなぜ反対なのか、それに対してどうして・・・とルール化する。どこかで落とすところを見つけない。

<⑥地域間での施設の有無（偏り）について>

- ・偏りがある方が自然。
- ・偏りはある程度許容。駅周辺を中心に集約。公共交通を確保して偏りをカバーする。
- ・地域ごとの偏りについては偏ってはダメなものはなにか決めていくこと。
- ・財源の問題。偏りの是正はできるのか。
- ・震災救援所など災害拠点はなるべく偏らないように配置する。

<その他>

- ・今日のように実際の利用者の声が聞けることが重要。考える上で必要だと思う。
- ・区をまたいだ施設の利用を。区境の住民にとって、隣の区のものを利用しやすいことも多い。
- ・広報に計画素案が出ていても目を止めづらい。
- ・有料、無料の別。利用の仕方の別。使い方の意見も聞いて欲しい。

全体共有

主な意見

- ・児童館やゆうゆう館といった施設は、近隣にあることが重要。介護をしながら子育てをしていたが、ほとんど社会とのつながりがない中で、児童館でできた交流が20年経った今も親子ともども続いている。このように児童館はコミュニティの大事な拠点となっていることを理解してほしい。
- ・児童館は、イベント等で保育園児～高校生までのつながりを持たた。児童館は杉並の宝であり、廃止したのも再編したのも元に戻してほしい。
- ・あんさんぶるが廃止になったときは、計画が決まる前も決まった後も、周知が十分でなかった。今後はこのようなことがないようにしてほしい。
- ・施設を考える時に、児童館であれば児童福祉の視点、高齢者施設であれば高齢者福祉の視点で考えることが必要であり、それを行政も含めてどうやっていくかを考える必要がある。ハード面だけでなく、中身が大切である。
- ・地域のことは地域の人がよく知っているので、地域の意見をよく聞いてほしい。例えば、少子化一つとっても、地域で実情は異なる。地域の課題を拾うところから地域が参画することを必要としている人がたくさんいる。
- ・施設は箱だけではなく、利用する人の視点に立って考えるべき。これまで施設を利用してきた人の経歴や思い等を見無視してはならない。また、将来にわたって利用できる、今後杉並に入る若者も利用できる施設をつくることが大事。
- ・桃三学童クラブも井荻学童クラブも100名を超える子どもがいると聞いた。学童クラブは家に帰宅するのと同じようにほっとできる場所であるべきだが、100人もいるとほっとできない。学校内にあった方がいい、という人もいるし、そうでない人もいる。どちらもあってよいと思うので、人数を少なくしてたくさん作った方がいい。

名称	区立施設再編整備計画の検証に関する意見交換会（井草地域）
対象	公募、無作為抽出した区民
参加者数 （区民）	16名
開催日時	令和5年7月11日 午後6時～午後8時30分
場所	井草地域区民センター 第1・2集会室
意見交換会 の目的	これまでの再編整備の取組や、これからの施設整備の進め方について区民意見を聴取する（グループワーク等を実施）。
主な意見	<p>区からの説明を受けての疑問・感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役所が作っている計画を、興味を持って見ている。これまでの計画では「この施設がこうなる」と「この施設」が主語になっているが、高齢の自分の親に言わせると、「私が」どうなるの、と聞かれる。施設を利用する人、利用したい人がどうしたら良いかという発想が必要。子どもの居場所は「子ども」が主語。ユーザーに響くような伝え方がされていない。「私はこうしたい」だからこういう施設が欲しいにつながる。誰が何をしたい、だからこうなる、の順番で伝えないと伝わらない。 ・経済合理性だけで、福祉施設を減らすことは選択肢としては無いと思う。民間ではできないことに、行政が重きを置いて取り組むべきではないかと思う。地域住民や地域団体の自主性に任せられるところは任せ、本当に必要なところに注力して欲しい。そうすることで行政側も効率的に動くことができるのではないか。 <p>また、行政と住民の信頼関係の構築において、組織体制を見直し、各部署の区職員の横の繋がりを構築し、住民への説明などに当たってほしい。</p> <p>これからの施設整備の進め方について考える</p> <p><①区を進める考え方について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設からではなく人から施設を考える。 ・区は、ここが揺るがないという部分は先にしっかり示す。 ・財政状況が分かりづらい。実感とかけ離れている。 ・オープン性・透明性のあるプロセス・情報を提供。 ・ゆうゆう館はこうする、児童館は増やすなど、大きな方向性を示してほしい。 <p><②③④どんな人と・どんな手段で・どんな方法で></p> <ul style="list-style-type: none"> ・区割りという線引きがない方が良い。 ・施設以外にも活用できる資源を探してみることも必要（民間も含めて）。 ・施設を利用していない層からの意見を。なぜ利用しないかの理由をアンケート調査。 ・学校の授業の中で「理想のまちは？」というテーマで意見を出し合うと新しい意見がでそう。 ・行政も多様な部署の人を集めて、検討を進めて欲しい。

<⑤意見がまとまらない場合の対応>

- ・決めるまでに納得できるまで話し合えるようにしてほしい。
- ・ある程度意見を踏まえて2～3案まとめて、コストなどを考えて区が決める。
- ・最低限のラインを共有して整備していくと良い。加算式だと意見がまとまらない。

<⑥地域間での施設の有無（偏り）について>

- ・必要な施設がなくなるような偏りはダメ。
- ・人に着目して必要な機能がそろっていれば良い。
- ・人とモノの派遣。施設としての偏りはあってもいいが、サービスとしては平等に受けられるように。

<その他>

- ・人の顔がみえる関係づくり。
- ・ゆうゆう館は複合化ではなく、単独で高齢者専門の施設にして欲しい。

全体共有

・区民の意見を聞いてもらえる場ができたことが喜ばしい。たくさんの意見を聞くことができた。ここは譲れない区の基準や最低条件を示しつつ、区民もここは譲れないという部分を出し合って、何が必要かを考えていければよい。

主な意見

子どもがおり、児童館のこともあって今日は意見交換会に参加した。安心して遊べる場所ができると良いと思っている。

・人から施設を作っていくことを再認識できたのが良かった。まちづくりとは、待っているだけではなく、欲しい人が集まって作り上げていくものと思う。

今日の中では、意見が合わないときにどうするかテーマが難しかった。全員の意見が叶うことはないが、「最低限これは」という部分を話し合いの中で落とし込み、実現できたら良い。

・今まで出席した意見交換会と異なり、ポジティブな意見を多く聞くことができた。是非ワクワクする施設づくりをするという方向に舵をきってほしい。

施設は、なくなってから気が付くことがたくさんある。「なくなる以前はできたこと」に対するフォローをしてほしい。多世代で、みんなが使える施設ができるとよい。

未来へつなぐ公共施設のカタチ

・施設から見るのではなく「人」から見る見方は大切ですね。対話は大事な人としての営みと思います。

・環境を重視する杉並だからこそ、建て替え、取り壊しの環境負荷にケアした施設作りをしてほしい。

・杉並区すべての人々が「住みつづけられるまち」を。持続可能な建物、まちづくりを体現してほしいです。

名称	区立施設再編整備計画の検証に関する意見交換会（高円寺地域）
対象	公募、無作為抽出した区民
参加者数 （区民）	23名
開催日時	令和5年7月14日 午後6時～午後8時30分
場所	高円寺学園 多目的・ランチルーム
意見交換会 の目的	これまでの再編整備の取組や、これからの施設整備の進め方について区民意見を聴取する（グループワーク等を実施）。
主な意見	<p>区からの説明を受けての疑問・感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人の意見を聴くことは賛成だが、施設の老朽化は進んでおり、対応する期限があると思う。意見がまとまらない場合はどうするのかと思う。 ・統廃合するにしても施設の特性を踏まえて考えるべき。近くになればならないものもある。施設を整備するにあたって、全て区の予算を使うのではなく、PFIなどの手法を使い、民間資金を入れるなど、柔軟な発想が必要では。 <p>また、区立施設の使用料は無料ではなく、将来の財政負担を減らすためにも適正な受益者負担を求めるべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童や放課後の居場所など課題があると思うが、どのように再編されるのかわからない。梅里から堀ノ内の方にゆうゆう館が移転したことがあるが、その際、移動してしまっは行くことができないという声を聞いた。仮設のときに場所が変わるのは仕方がないが、楽しみにしてきた人が、改築で来ることができなくなってしまうのはいかがか。 <p>これからの施設整備の進め方について考える</p> <p><①区を進める考え方について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・声が届きにくい人の意見を拾うことができる仕組みを。 ・意見が100%通るとは思わないが、なるべく思いを受けとめてほしい。 ・コミュニティふらっとを作る理由が伝わっていない。利用していない人には伝わらない。教えて欲しい。 ・はじめから区の方針は決まっている。計画段階から区民の声を。 ・まちづくりは行政でなく、住民全体（その後押しを行政に）。 <p><②③④どんな人と・どんな手段で・どんな方法で></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の特性に合わせて意見を聴く人（単位）を変える。 ・どんな施設があったら使いたいかと聞かれても困る。逆にこんな施設だったら使いたいかと聞いて欲しい。 ・改修後のイメージもしっかりと伝えてほしい。 ・利用していない人の意見も聞けると。 ・利用している施設で意見を言える場の周知を。

<⑤意見がまとまらない場合の対応>

- ・区である程度方向性を決めてから意見交換。
- ・区の出す前に意見交換して欲しい。賛成・反対は区の見解に対してのもの。
- ・達成できるビジョンがあれば納得できるかも。
- ・顔と顔をつきあわせて話し合う場を。

<⑥地域間での施設の有無（偏り）について>

- ・地域や区で区切りすぎない方がよい。
- ・特性を元に作られたという情報をもっと提供すると良い。
- ・公共施設の機能を変えることも視野にできるのでは？

<その他>

- ・区の課題解決に住民の力を。
- ・区だけで財源を確保するのではなく、寄付を募るなどもあるのでは。民間と一緒に。
- ・（施設を作る時）役所の横のつながりがいい。Ex. 防災、緑化

全体共有

主な意見

・こういう会に若い世代などが入ると良いと思う。計画が決定する前にこういう会があつてよかった。大人の道徳の時間だったと思う。自分の意見だけでなく、譲り合いの気持ちが大事だと思った。

・今日のグループワークの中で、高円寺北口の再開発について、高円寺はこのままがいいと言う人、新しく便利な方がいいと言う人、様々な意見があつた。

こういう機会を何度も作つて、いろいろな意見を吸い上げていってほしい。

・ゆうゆう館などが古くなっていく中、知恵を出して建て替えるのは賛成。

一方、回覧を回しても見てくれない「老人不登校」の方もいて、一声かけて友達になつてチームを作るようなイメージで仲間意識を持つことができるようにする必要があつたと思う。

・区が決定して、区民が従う形から変化していくことは良いと思う。区が区民と話し合つて決定していく姿勢は歓迎したい。職員の方には、現場を見た上で現状をよく理解してもらいたい。

未来へつなぐ公共施設のカタチ

- ・いつでも気軽に立ち寄れる施設があるとうれしい。
- ・どんな人でも利用できる施設。人を思いやる大切さ。施設は人が作る。
- ・区民（利用者）が「運営」の担い手となる施設作りを。
- ・住民が創るまち→新しい形の公共施設。

名称	区立施設再編整備計画の検証に関する意見交換会（荻窪地域）
対象	公募、無作為抽出した区民
参加者数 （区民）	19名
開催日時	令和5年7月15日 午後2時～午後4時30分
場所	荻窪地域区民センター 第1・2集会室
意見交換会 の目的	これまでの再編整備の取組や、これからの施設整備の進め方について区民意見を聴取する（グループワーク等を実施）。
主な意見	<p>区からの説明を受けての疑問・感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校内は集会施設としての利用が少ない（桃二のフリースペースなど）。そういったものを活用すると良い。児童館は残してほしい。乳幼児からずっと行ける施設としてのメリットがあるし、児童厚生専門の職員がずっと子どもを見てくれている。トラブルなどがあった場合に相談ができる。コミュニティふらっとは利用料がかかるし、ビジョンが伝わってこない。まちづくりと施設は一体だと思う。 ・行政の悪いところは方針を決めたら、そこから脱却できないことである。計画に柔軟な対応ができるような条項を設けるべき。 <p>今回の計画で決めたことについても、改めて定期的に検証・見直しが必要だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの質問は誘導しているように思える。アンケートはあくまでの一つの意見でしかない。 ・アンケートは一つの結果として、結果を見た人がそれぞれで判断すればよいと思う。私は、全体の意見としては、こんなものかなと感じた。特に誘導しているようには感じなかった。 <p>これからの施設整備の進め方について考える</p> <p><①区の進める考え方について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画策定から区民の意見を取り入れることはよいと考える。 ・基本的調査は必要。意見を聞きながら計画を進める。 ・新しい進め方については十分な情報提供と理念があれば賛成。 ・3年毎の計画でなく、長いスタンスで考えていける形がほしい。 <p><②③④どんな人と・どんな手段で・どんな方法で></p> <ul style="list-style-type: none"> ・杉並区や当該地の人口比率に応じた性別、年齢バランスで検討して欲しい。 ・現在利用している子どもから高齢者まで、みんなの気持ち考えを聞いてからにしてほしいです。 ・利用者の年齢層、利用状況のデータ等ファクトベースで必要、不要を考えられる土壌が欲しい。 ・区政への関与はなかなか遠く感じる人が多いので、対話型の説明会を行う。 ・施設によると思うので、それぞれに応じて。※見直しをすすめること自体をしっかりとアナウンスする。

<⑤意見がまとまらない場合の対応>

・あきらめないでひざをまじえて話を対話をしてほしいです。少しずつゆずり合っていくと良い方向へ。

- ・十分な時間をとって意見を深く理解していくべき。
- ・事前に状況を丁寧に説明して取組を決めていけば納得感がある。

<⑥地域間での施設の有無（偏り）について>

- ・地域の意向を尊重したうえで差異があってもいいと思う。
- ・高齢者が少ないからと今は思っても、30年後、50年後はどうなるかわからないので、できれば7地域同じに、
- ・できれば公平性を求めたいが、住んでいる人の年齢層やニーズを考えて、限られる財源をもとに地域の特性を考えてもいいのかも。住んでいる人に意見を求める？

<その他>

- ・財政的な理由が前面になってしまうとウキウキしない。必要な予算を持つてくることも可能では？
- ・開かれた杉並区役所を目指して欲しい。区長直轄部門で、第三者機関でディスカッションする。

主な意見

全体共有

- ・自身が児童館や学童クラブなど、子育て時代のつながりに助けられた。今日のような進め方で、子どもたちも参加できるような仕組みづくりを考えていただきたい。
 - ・アンケートは心情として信用しない。生の声が一番なので、グループディスカッションで話をすることができて良かった。帰ったら家族共有したい。
- 広報紙などで施設の廃止、取り壊しのことを見かけるが、結論しか書いていない。そのプロセスがわからないので、情報開示をしっかりといただき、その中で我々の意見も有用に活用してほしい。
- ・公共施設の新しいカタチを考えることを通して、杉並の新しいカタチを考えたいと思った。子供に何か意見あるかと聞いたら、学童クラブの人はいつも忙しくて相手をしてくれないと言っていた。公共施設は多面的に見たい。地域も人も持続可能であって欲しい。いろんな意見が言える杉並であって欲しい。住んでいて良かったと思いたい。

未来へつなぐ公共施設のカタチ

- ・住んでいてよかったとみんなが思えるように、区民の声を聴き続けていってほしいです。今日のような場を1回限りでなく、
- ・利便性が高く、幅広い年齢層が利用できる施設が理想です。公共施設も社会資本の一つなので、耐用年数にも配慮した長く利用できる施設が理想です。
- ・赤ちゃんも大人もみんなが「やりたい」を叶えられる場所に。